

2021 年度

山梨 YMCA 事業方針・計画 (案)

基本聖句

「あなたがたは地の塩である。」 新約聖書マタイによる福音書 5 章 13 節より

全体基本方針 (LOVE: Life support, Outreach, Volunteer, Education)

総主事 露木淳司

「地の塩」は、食卓に並ぶ様々な料理にあって、色や形は見えないが隠し味として無くてはならない役割を持つ。この聖句を胸に秘めつつ、2021 年度も “L・O・V・E” が示す 4 つのコンセプトを行動指針として、私たち自身が塩であることを自覚し、地域社会に貢献すべく有意義なプログラムの運営体制を確立していきたい。

山梨 YMCA は戦後間もない 1946 年甲府の焼け野原で誕生した。本年 5 月に 75 周年を迎える。その記念事業として明るくきれいな会館を与えられた。

今、この地にあって、改めて YMCA 基本原則、FOR ALL の精神に立ち返り、神のみ旨に沿ってこの施設を活かすべく、すべての人々の健全な暮らしを支援していくための環境を整備する (Life support)。

また、山梨県全体に目を向け、プログラム展開エリアを拡大し、一人でも多くの支援を求める人にこちらから近づいて行く (Outreach)。

そのことを目的とし、地域のユースの力を結集し、ワイズメンやボーイスカウト、YWCA などのボランティア団体と連携しつつ、それぞれの拠点において地域共生社会創生のためのモデルとなる事業運営を目指す (Volunteer)。

同時にスタッフの人材育成に励み、さらに高品位、高品質の教育プログラムの提供、人材育成、事業間協働に万全を尽くしたい (Education)。

1. 子育てと子育て 子どもたちと寄り添う チャイルドケア事業

担当ディレクター 中田純子

事業方針

異年齢との交わり、自然との関わり、異文化との出会い、高齢者とのふれあいなど、多くの発見、体験の中で、子どもたちの自ら育つ力を最大限発揮させる。一人ひとりに寄り添い、見守ることで自己肯定感をはぐくむ。そして、YMCA という新しいコミュニティの中で、子どもたちが安心して過ごせる居場所となるよう、より良い環境づくりに励む。すなわち垣根のないインクルーシブな空間の中で、乳幼児や、健常児、発達障害児（障害のある子どもを含めて子どもたち）が、共に交わり合い、育ち合う。0才から100歳までの生涯にわたって伴走していける環境の創生、全人一貫教育の具現化を目指す。

1) 企業主導型 野の花保育園(収益事業) 収入 13,320 千円 支出 12,100 千円 担当 守屋瑞穂

事業方針 YMCA 保育の理念～イエス・キリストの愛と奉仕の精神に基づき、一人ひとりのいのちが輝く平和な社会の実現を目指す。

「子ども」一人ひとりの子どもが愛されていると感ずることができるよう育てる。

「家庭」子どもの成長をともに喜び合えるように 家庭と手を携えていく。

「地域」地域の人々と、ともに生きる社会の形成を担う。

重点目標

- ① YMCA 保育の理念の具現化
- ② 園児の確保
- ③ 保護者との連携

事業計画

- ① 愛着関係をより深く築く保育。日常の繰り返しをたいせつにし、子どもたち自身が生活の見通しを持って、環境に対して主体的に関わる保育、「遊びを中心とした保育」を通して、豊かなこころと感性を育む。
- ② 積極的かつ効果的な広報戦略の構築と実践。
- ③ 子育て相談室の実働化、園児、保護者双方に寄り添った保育。

2) 児童発達支援、放課後等デイサービス

事業拠点

<本館きらきら教室(小学生)>

本館グローバルコミュニティセンター 収入 23,313 千円、支出 9,730 千円 担当 平賀佳雅

<本館ぽかぽか教室(幼児)>

本館にじの家 収入 11,760 千円、支出 8,720 千円 担当 守屋瑞穂

<南西きらきら教室(小学生)>

南西望みの家 収入 20,273 千円、支出 10,205 千円 担当 土肥 満

<南西きらきらプラス教室(中高生)>

南西望みの家 収入 12,000 千円、支出 8,000 千円 担当 土肥 満

<りんごの木>

田富恵みの家

収入 20,433 千円、支出 16,329 千円 担当 森 香里

事業方針 利用者及びその家族のニーズに寄り添った支援。

重点目標

- ① キリスト教の精神に基づく療育を行い、子どもたちが主体的に（いきいきと自由に）生活できるよう環境を整え、プログラムを開発し、実態に応じて自立と社会参加を目指す。
- ② 関係機関・学校との連携協力関係を構築し、保護者のニーズに寄り添った支援を行う。
- ③ インクルーシブプログラムを促進し、自己存在感、自己決定を大切に、共感的に理解することで、よいところを伸ばし、認められ、安心できる居場所作りを進める。
- ④ 中高生プログラムの開発、及び新エリアでの活動拠点を拡大する。
- ⑤ 利用者・保護者への心理的援助、職員の質的向上を図る。

事業計画

- ① 日常生活、社会生活のスキル習得につながるプログラムを行う。個別の課題設定を行い、利用者と家族が暮らしやすくなるよう生活習慣につながる育ちを促し、その過程を定期的に確認し家庭と連携する。また、保護者の悩みや課題を解決するために共に考える機会を意図的に設定する。
- ② 支援会議に参加し、個別の支援計画を協力して作成する。障がいのある子どもの心身の状況、その置かれている環境等に照らし、本人とその家族の自立と自律を促し、日常生活を営むことができるよう定期的に検討し、必要な援助を行う。相談事業所、児童相談所、医療機関との連携を強める。
- ③ 本館においては、ぽかぽか教室、きらきら教室とアフタースクール「プライムタイム」、野の花保育園との連携共同運営の仕組みを構築する。年齢、障がいの有無を超えて、発達支援の専門スタッフによる伴走システムを有効に機能させる。
- ④ 本館、南西教室及びりんごの木の3拠点の連携を密にし、一体的な事業運営を推進する。
- ⑤ 3年以内に、甲斐市、北杜市、富士北麓地区に新拠点を開設する。さらに将来的には全県での展開を模索する。

拠点別計画

【本館グローバルコミュニティーセンター・きらきら教室】

本館は多機能型ぽかぽか教室&きらきら教室として登録されているが、実質的には小学生きらきら教室の拠点とする。高齢者や学童保育、保育園などと併設されているので、総合の交流プログラムを積極的に展開する。

【本館にじの家・ぽかぽか教室】

新たに借用するにじの家の東館を幼児ぽかぽか教室の拠点としてこの5月から開設する。

【南西望みの家・きらきら南西教室】

- ① 「放課後児童クラブと「放課後等デイサービス」の職員が協働して事業運営にあたり、共に、障害のあるなしによらず、日常的に関わり合いながら活動する「インクルーシブ学童保育」を推進する。
- ② 新たに南西教室 B 館として新拠点として賃貸家屋を契約し、中学生プログラム「きらきらプラス」を開設する。

【田富恵みの家・りんごの木】 収入 20,433 千円 支出 16,329 千円

- ① 「児童発達支援」と「放課後等デイサービス」の職員が協力して児童やその保護者の支援にあたる。
- ② 中央市内にもう一拠点開設を目指す。

【山梨 YMCA 教育心理研究所（仮称）】

- ① 本館内に開設し、利用者及びその保護者、さらには職員等に対する相談や心理的援助サービスを行う。
- ② 中高生に対する援助プログラムの開発する。
- ③ 学校生活に苦戦する高校生を対象としたプログラムを行い、新たな居場所を提供する。
- ④ 福祉・教育・心理に関する研修会や講座を開催する。

3) アフタースクール「プライムタイム」 ～本館、南西教室～

事業拠点

- ① 甲府市放課後児童クラブ（4～6年生）本館にじの家 収入 11,412 千円 支出 9,150 千円 担当 田草川啓
- ② プライムタイム（1～3年生）本館グローバルコミュニティセンター収入 18,360 千円、支出 11,229 千円 担当 仙洞田結
- ③ 甲府市放課後児童クラブ（4～6年生）南西望みの家 収入 3,804 千円、支出 3,050 千円 担当 花曲琴音
- ④ プライムタイム（1～3年生）南西望みの家 収入 3,240 千円、支出 272 千円 担当 花曲琴音
- ⑤ キッズパラダイス（英語学童）本館グローバルコミュニティセンター収入 4,000 千円、支出 3,500 千円 担当 仙洞田結

事業方針

自ら作り出す放課後をモットーとし、子供たちの可能性を拓き、自信を育てる時間を創出する。

重点目標

- ① 児童の基本的な生活習慣を確立し、健全な育成を図る。すなわち、一人ひとりの人権、人格を尊重し、自主性・社会性・創造性の向上を図る。
- ② with コロナのルールを徹底し、安全・安心・清潔な教育環境を創出する。
- ③ 甲府市放課後児童クラブ、YMCA 放課後児童クラブ、キッズパラダイスとの複合的運営システムを確立する。

事業計画

- ① 家庭地域と連携、発達段階に応じた主体的な遊び、生活を可能にする。季節に応じた教育的プログラムを提供する。
- ② コロナ禍にあっても、児童の日常の環境整備に万全を尽くし、安心・安全の下、保護者からの信頼を得て、着実に児童数を確保する。
- ③ 新たに南側の住宅（にじの家）を借用し、本館の拠点を拡大。甲府市放課後児童クラブ（小4～6）の会場とする。低学年プライムタイムの二元的運営体制を確立する。
- ④ 地球市民の育成をねらい、「プライムタイム」と「キッズパラダイス（英語学童）」との連携運営システムを構築、実働化し、プライムタイムからキッズパラダイスに移行を促す仕組みを作る。
- ⑤ 南西教室においては、放課後児童クラブと放課後等デイサービスの職員が協働して事業運営にあたりると共に障害のあるなしによらず、日常的にかかわりあいながら活動する「インクルーシブ学童保育」を推進する。

2. ユースエンパワメント 若者の力を信じる 生涯学習事業

担当ディレクター 福田奈里子

1) 英語学校（収益事業）収入 11,386 千円（部門間内部振替含）支出 8,838 千円

担当 福田奈里子

事業方針

英語は「平和を作る道具」としてとらえ、これをしっかりと身につけると共に英語の実践力をつける。そのための、伝える英語（Speaking & Writing）受けとる英語（Listening & Reading）の4技能を実践的に身につける出会いと学びの場を創造する。

重点目標

- ① 語学教育を通じた地球市民の育成
- ② グローバル社会で役立つコミュニケーション力養成
- ③ 多様性を受け容れるこころの教育
- ④ あらゆる人々と共に生きる多文化共生社会の実現

事業計画

- ① 語学教育による地球市民の育成～「英語を使って世界を知る」をテーマにしたカリキュラム作り。年間行事の中にグローバル教育の手法を用いた英語イベントを設ける。Discoverシリーズ、SDGs、World Food Day、World Christmas など
- ② グローバル社会で役立つ、英語によるコミュニケーション力（聞く、話す、読む、書く4技能の養成～技能の基礎力の養成：英語学習の強化コースの設置 ＊学童以外の生徒を中心に英語強化コースを設置。＊中高生対象の「プレゼンテーション力」強化中心の会話クラスと受験英語/TOEIC 対策（文法）クラスの開設
- ③ 多様性を受け容れるこころの教育～ ＊ニュースレター、SNS を通じた情報発信 ＊YMCA マインドについての英語講師・スタッフ間での学び ＊学校になじめない子どもたちのための Communicative English（英語コミュニケーションを楽しむクラス）の設置
- ④ あらゆる人々と共に生きる多文化共生社会の実現
＊国際事業との協働によるイベント開催 ＊バザーでの地球屋台村、チャリティーラン等での英語チーム結成など

2) アフタースクール・レッスン（放課後習い事、収益事業）

～音楽教室（ピアノと音感）、書道教室、ロボット教室、クラシックバレエ教室

収入 5,348 千円 支出 2,605 千円（4事業合計） 担当 福田奈里子

事業方針

生涯学習の一環としての教養教室の内容を充実させ、広く地域の方々に参加してもらえるプログラムを目指し、2021 年度は運営体制を強化しつつ、プログラムの新規開拓を行ないます。

重点目標

- ① 講師とスタッフとの連携、運営体制を拡充
- ② 新規事業開拓
- ③ 地域にむけての広報

事業計画

① スタッフサポート体制強化

生徒管理、講師管理等の役割分担を明確化、参加者、外部委託講師への丁寧なフォローアップの実現。

② 新規事業開拓

一般成人向けのプログラムを中心に、カルチャーセンター的な内容での新規プログラムを開拓する。(ex. 大人の書道教室、外国人向け講座カルチャー講座、ワンコイン英語カフェ etc.)・外部の教室に向けての講師派遣等の営業を行なう。(英会話講師派遣、体操教室、ボランティア講座など)

③ 地域に向けての広報強化

＊自治会の広報等を利用したイベント告知 ＊県生涯学習センター等を通じたイベント実施からYMCAプログラム参加への移行促進 ＊SNSの活用

3) 野外環境教育・ユースボランティア育成事業 収入 7,756 千円 支出 2,950 千円

担当 露木魁人

事業方針 より大きく(メンバー,リーダー,プログラム)
より広く(対象,ニーズ)
より長く(ずっと携われるものを)

重点目標

- ①メンバーの定着化、高学年になっても継続できる内容 ⇒幼児キツツキ、小学生⇒ハヤブサ、障がい児⇒フクロウ
- ②with コロナで、活動安定化。消毒等の徹底。脱三密。
- ③リーダー育成の場の確立

事業計画

- ①年間活動のアウトドアクラブ、季節活動のわいわい地球塾・キャンプの充実。早め早めの募集活動、わかりやすい運営の仕組みづくり。プログラム内容の強化、ユースリーダー主導で楽しめる工夫を。
- ②with コロナで安全な運営に向けての情報発信をしながら、実施を継続していく体制作り
- ③リーダー育成 (オンライン活用でミーティング&トレーニング強化)

3. 生活クオリティの向上 健やかな生活を支える高齢者福祉事業

担当ディレクター 鶴田和子

事業方針

高齢者、乳幼児とその保護者、青少年、障がい児、外国籍市民等が共生し、ケアし合うコミュニティ作りを目指す。そのためにバザーやチャリティーラン、クリスマスなど既存のプログラムから、会員相互が一つになり、より密接に交流が図れるような工夫をしていく。

1) ぶどうの木(通所介護事業所、収益事業)収入 29,400 千円 支出 23,300 千円

担当 鶴田和子

重点目標

- ① No 感染者、No 事故
- ② 収益10%UP

- ③ 地域密着型で地域に貢献。
- ④ 利用者・家族の安心できる時間づくり

事業計画

- ① with コロナでの運営方法徹底。ヒヤリハット活用、職員間活用*
- ② 介護職員処遇改善加算の申請。一日の利用 10 名、一週間 50 名。認知症加算の取得申請
- ③ 地域の活動参加。
- ④ 家族・ケアマネ・訪問看護師・訪問リハスタッフとの連携強化、安心して楽しいデイライフ

2) オリーブの木 (通所介護事業所、収益事業) 収入 15,950 千円、支出 14,900 千円 担当 中澤かおる

重点目標

- ① No 感染者、No 事故
- ② 利用者、家族共に満足できる施設。要介護者の在宅での生活継続を可能に
- ③ 利用登録 15 名以上、一週間延べ 30 人
- ④ 地域密着型で地域貢献地域交流促進* スタッフ間の連携密に

事業計画

- ① 事故・感染防止対策、常時見直し。ヒヤリハット振り返り対策共有
- ② 子供たちとの交流。スタッフが楽しく利用者と関われる職場。
- ③ ケアマネの集まりに参加、オリーブの木の特徴アピール。HP の充実。重症者受け入れアピール
- ④ ケア塾、外部研修でスキルアップ。YMCA の特徴を生かしたイベント計画、他部門との連携密に。中重度ケア体制加算手続き実施。自治会と連携、地域の行事参加。地域包括センターと情報交換、地域のニーズに対応。ボランティア募集、定着化と研修。スタッフ間の連携、関係づくり

3) 介護予防事業 にこにこ健康ひろば、いきいき歌声ひろば 担当 露木魁人 にこにこ収入 930 千円、支出 868 千円 いきいき収入 259 千円、支出 186 千円

重点目標

- ① 介護を必要としない健康生活と、笑顔で生き生きと暮らせる日々の生活を
- ② 利用者増を実現し、YMCA 運動の一環として地域に浸透させる

事業計画

- ① 利用者の意見に耳を傾け、ニーズを把握し、利用者の視点からプログラム内容を組み立てていく。
- ② 自治会、地域包括センター、地域との関係を強める。プログラム内容のわかりやすい案内。広報の仕方を工夫する。

4. 社会に貢献 国際・地域交流事業 収入 3,280 千円 支出 780 千円 担当 福田奈里子

1) 地球市民教育事業

事業方針

YMCA の精神をスタッフ間で共有し、学び合うことを土台としながら、それぞれの事業部が「支え合うコミュニティづくり」の一環として業務にあたるよう促し、地域・国際事業部として以下の4点を柱としながら、「グローバルコミュニティ」を作っていくことを目指す。

重点目標

- ① 「グローバルコミュニティセンター」としてのセンター機能の基礎づくり
- ② ユースのリーダーシップ育成
- ③ 地域に根差したコミュニティ活動の場づくり
- ④ あらゆる人々と共に生きる多文化共生社会の実現

事業計画

- ① 「グローバルコミュニティセンター」としてのセンター機能の基礎づくり
*PR 強化 (SNS、メディア等に積極的に情報発信) *他団体、NGO・NPO との連携強化 (会議等に YMCA を積極的に使ってもらおう) *在住外国人のプログラム参加促進 (ボランティア・スタッフ等) *甲府 21 ワイズ=アデレードワイズの IBC の力を借りて交流企画を考案
- ② ユースのリーダーシップ育成
*ユースリーダーシップフォーラムの継続開催、フォローアップ、拠点づくり・世界 Y、アジア Y 主催の国際プログラムに山梨 Y から参加者を送り出す *ワイズメンズクラブとの協働プログラム実施 *タイ、バンコク YMCA との「オンラインスタディーツアー」の実施 *オンラインコミュニティのプラットフォームとしての機能を発揮する。
- ③ 地域に根差したコミュニティ活動の場づくり
*YMCA 主催の地域イベントの実施：バザー、チャリティーラン他 *バザーに留学生や外国籍市民の参加促進。→駐車場または3階テラスで「地球屋台村」を展開 *地域のお祭り等への積極的参加*2021 年度開催「日本女性会議」運営委員として参加 *YMCA 主催の「ケア塾」との事業間協働
- ④ あらゆる人々と共に生きる多文化共生社会の実現
*グローバルコミュニティーフェスタの開催 (多文化共生をテーマにしたバザー) *外国籍児童 *生徒のサポートプログラム (キャンプ、英語プログラムへの招待) *フードバンク山梨による「フードドライブ」への参加

2) 同じ目的を有する団体への支援事業

担当ディレクター 露木淳司

収入 400 千円 支出 0 円

YMCA 運動に賛同し連携する他団体への事業の共同、施設・備品提供、人材派遣など、共に成長すべく、協力、支援し合える関係作りに努める。(ワイズメンズクラブ国際協会、山梨ポーターズ協会、山梨県教会一致懇談会、ボーイスカウト甲府 5 団他)

3) 設備貸与事業

担当ディレクター 露木淳司

収入 300 千円 支出 80 千円

地域に開かれた施設として YMCA を認知していただくために、地域の諸団体、個人を対象に YMCA 施設、備品の有効な活用を積極的に推奨するために設備貸与事業を行う。